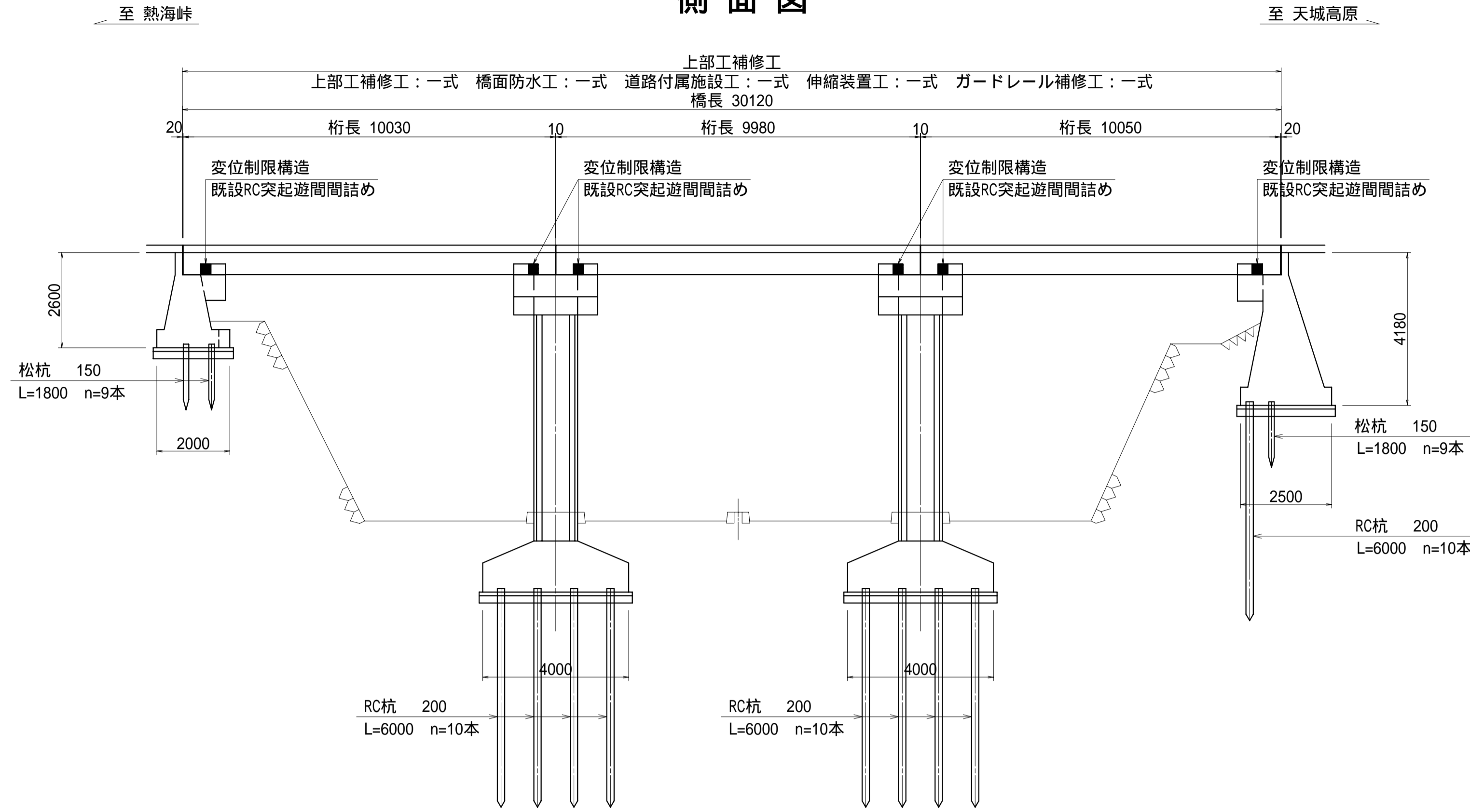


亀石橋補強一般図

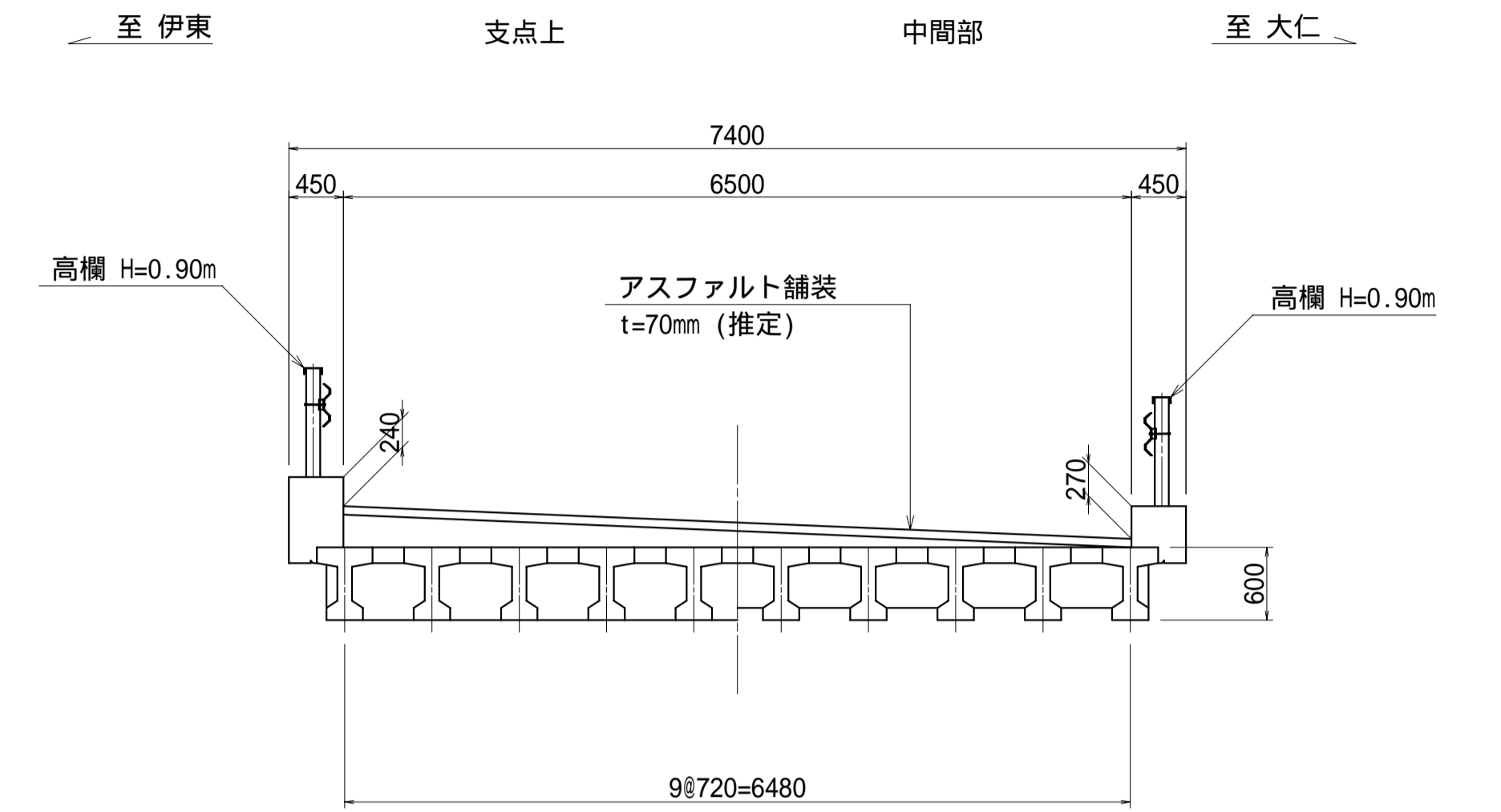
S = 1 : 100

側面図

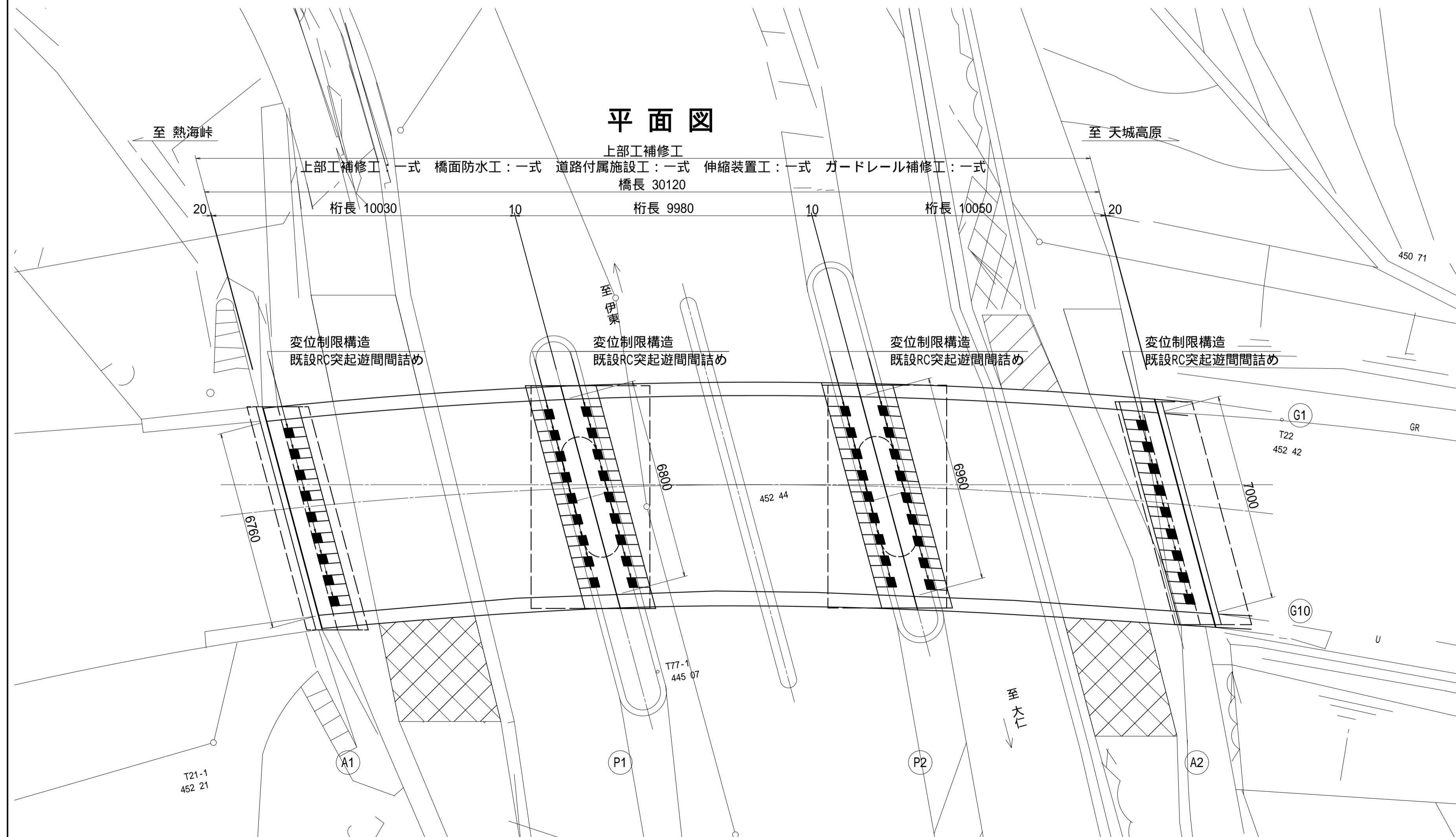


標準横断面図

S = 1 : 50



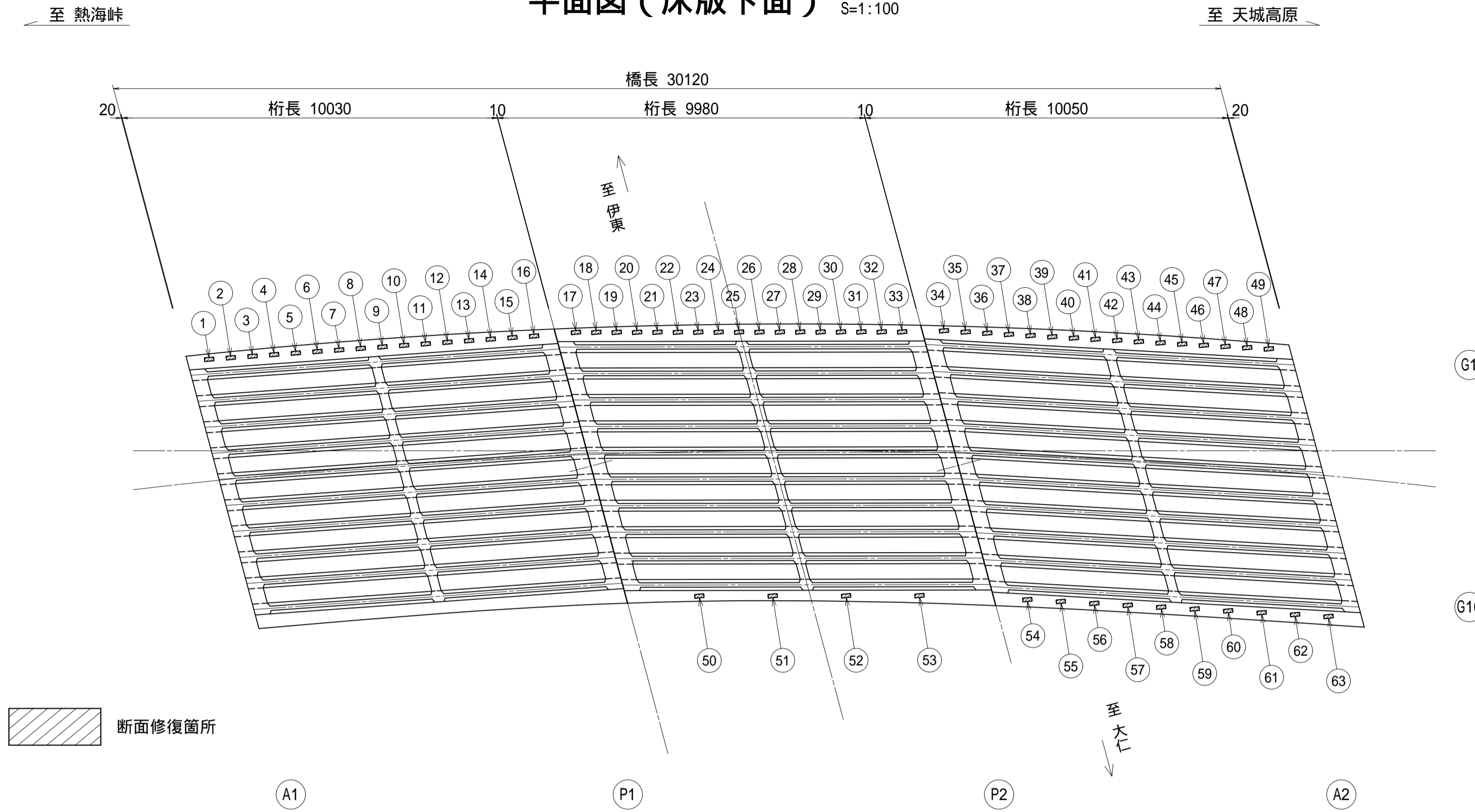
平面図



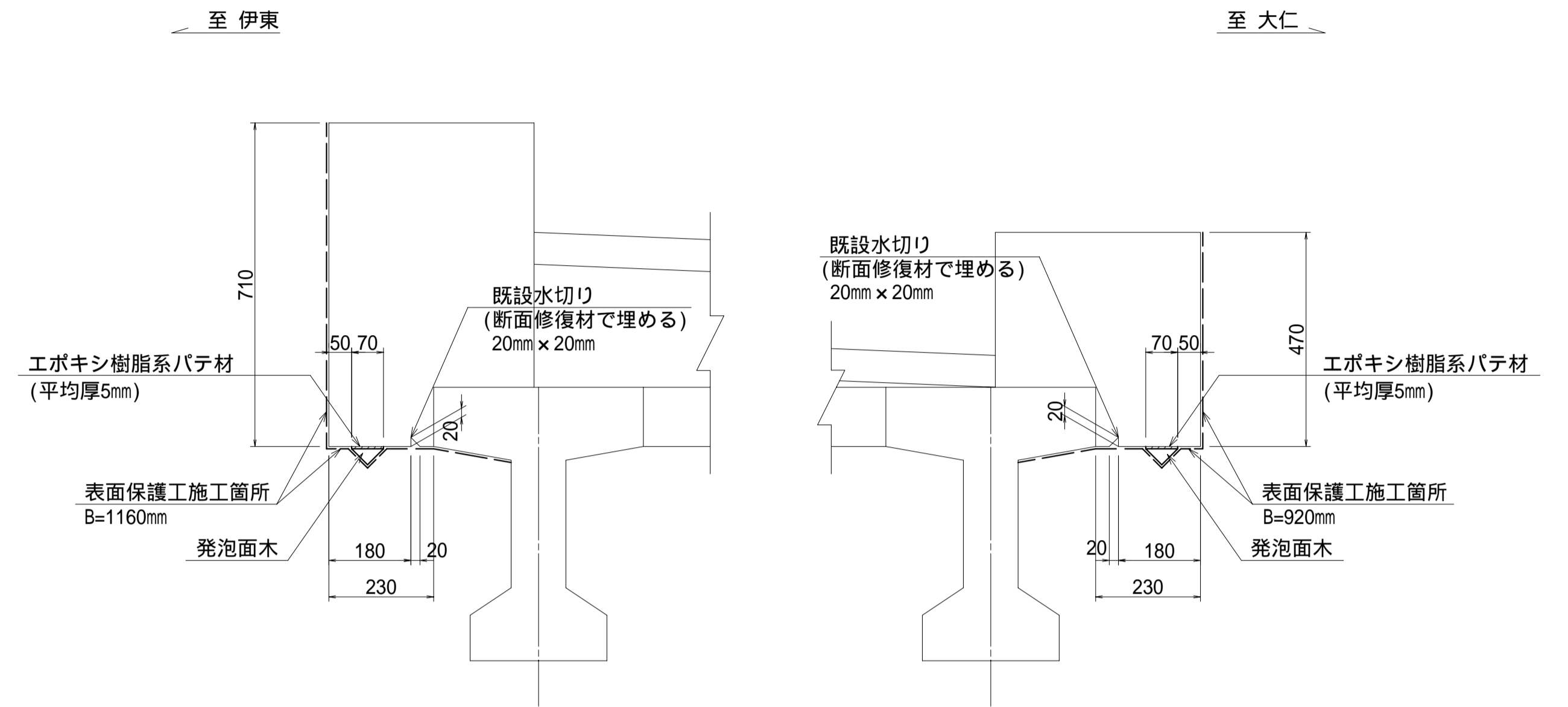
工事名	平成22年度 伊豆スカイライン橋梁補修工事 (亀石橋・中伊豆橋)
工事箇所	伊東市宇佐美～伊豆市冷川 地内
図面の種類	亀石橋補強一般図
縮尺 図示	図面番号 22 葉中 1
測量年月日 H	設計年月日 H
事務所名	静岡県道路公社

亀石橋上部工補修工

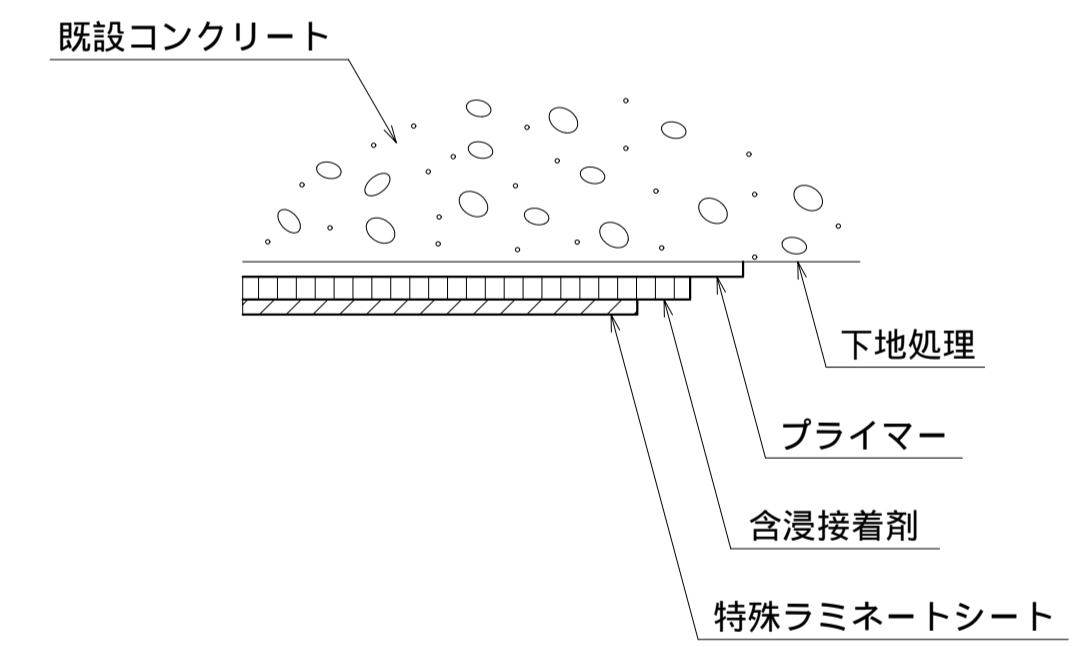
平面図 (床版下面) S=1:100



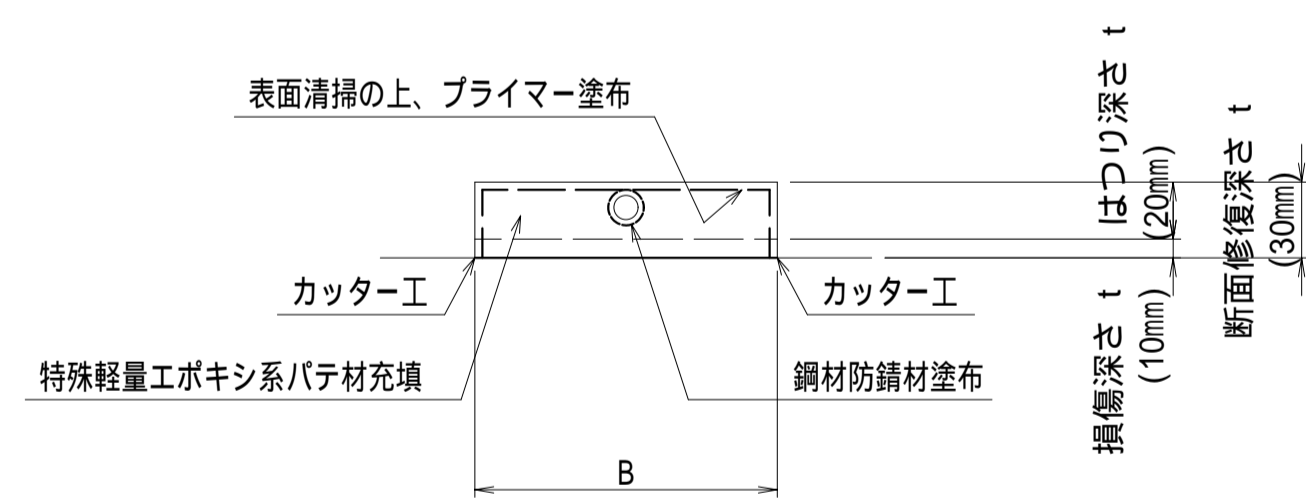
水切り工詳細図 S=1:10



表面保護工詳細図 (参考図)



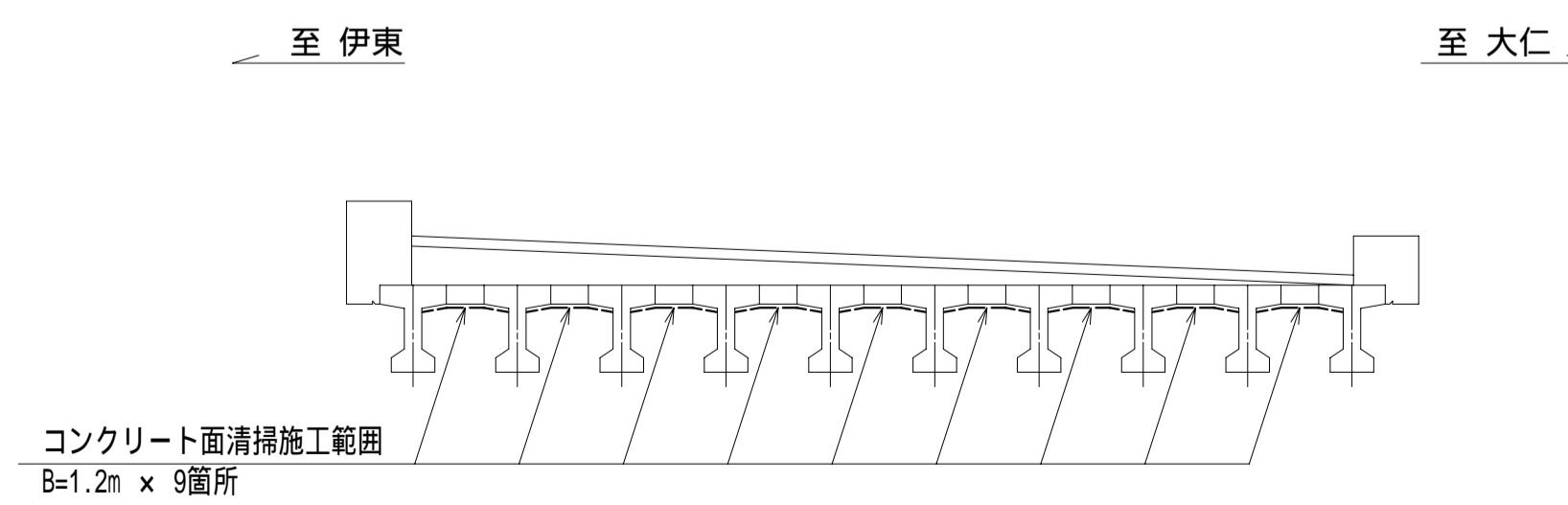
断面修復工詳細図



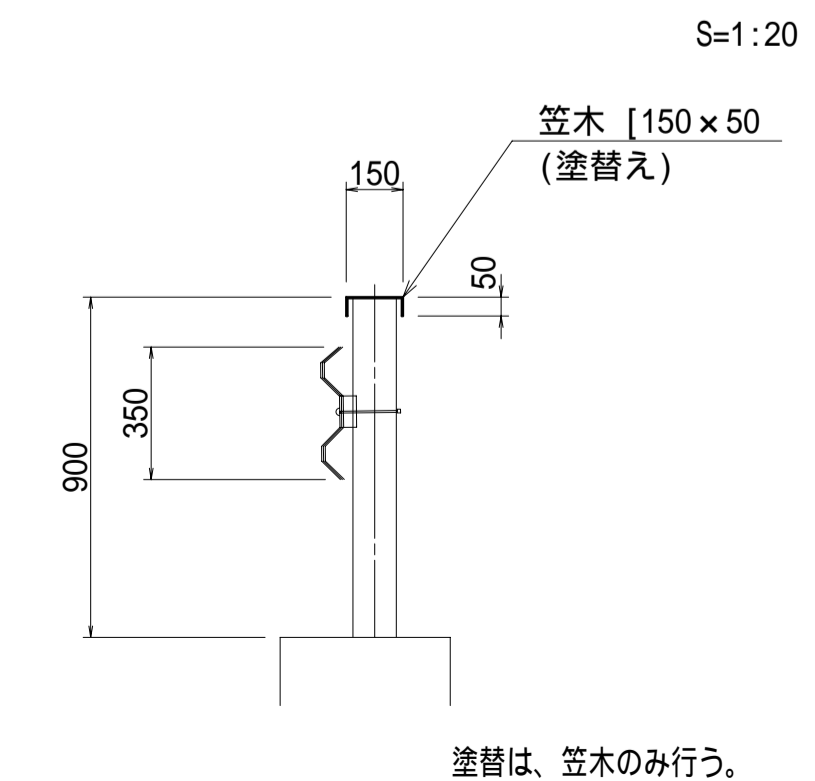
断面修復寸法表

位置	損傷状況	幅B(mm)	長さL(mm)	厚さt(mm)
①~⑬ A1橋台~P1橋脚伊東側張出し床版下面	鋼材露出	100	180	30
⑭~⑲ P1橋脚~P2橋脚伊東側張出し床版下面	鋼材露出	100	180	30
⑳~㉔ P2橋脚~A2橋台伊東側張出し床版下面	鋼材露出	100	180	30
㉕~㉙ P1橋脚~P2橋脚大仁側張出し床版下面	鋼材露出	100	180	30
㉚~㉞ P2橋脚~A2橋台大仁側張出し床版下面	鋼材露出	100	180	30

コンクリート面清掃断面図 S=1:50



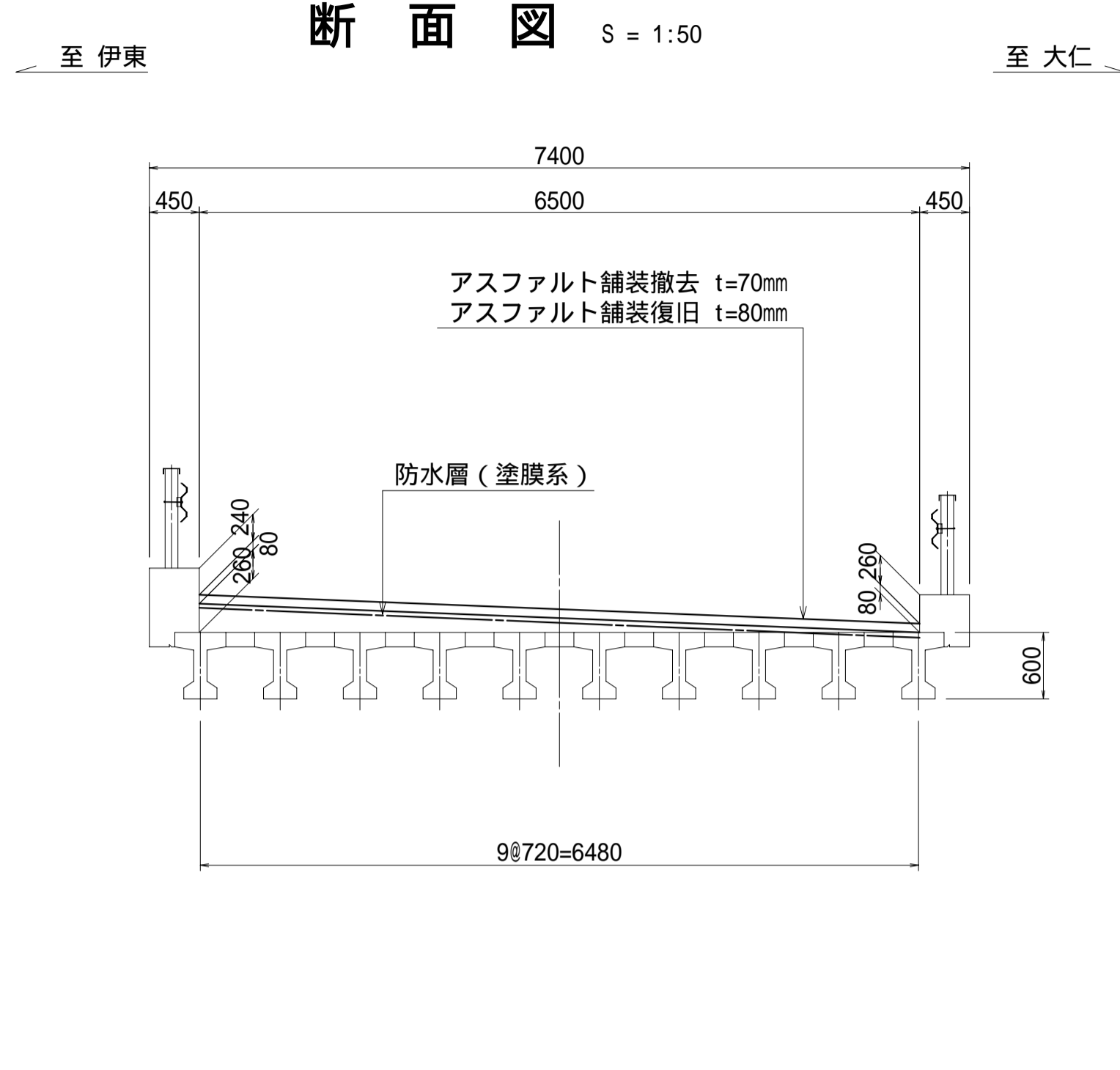
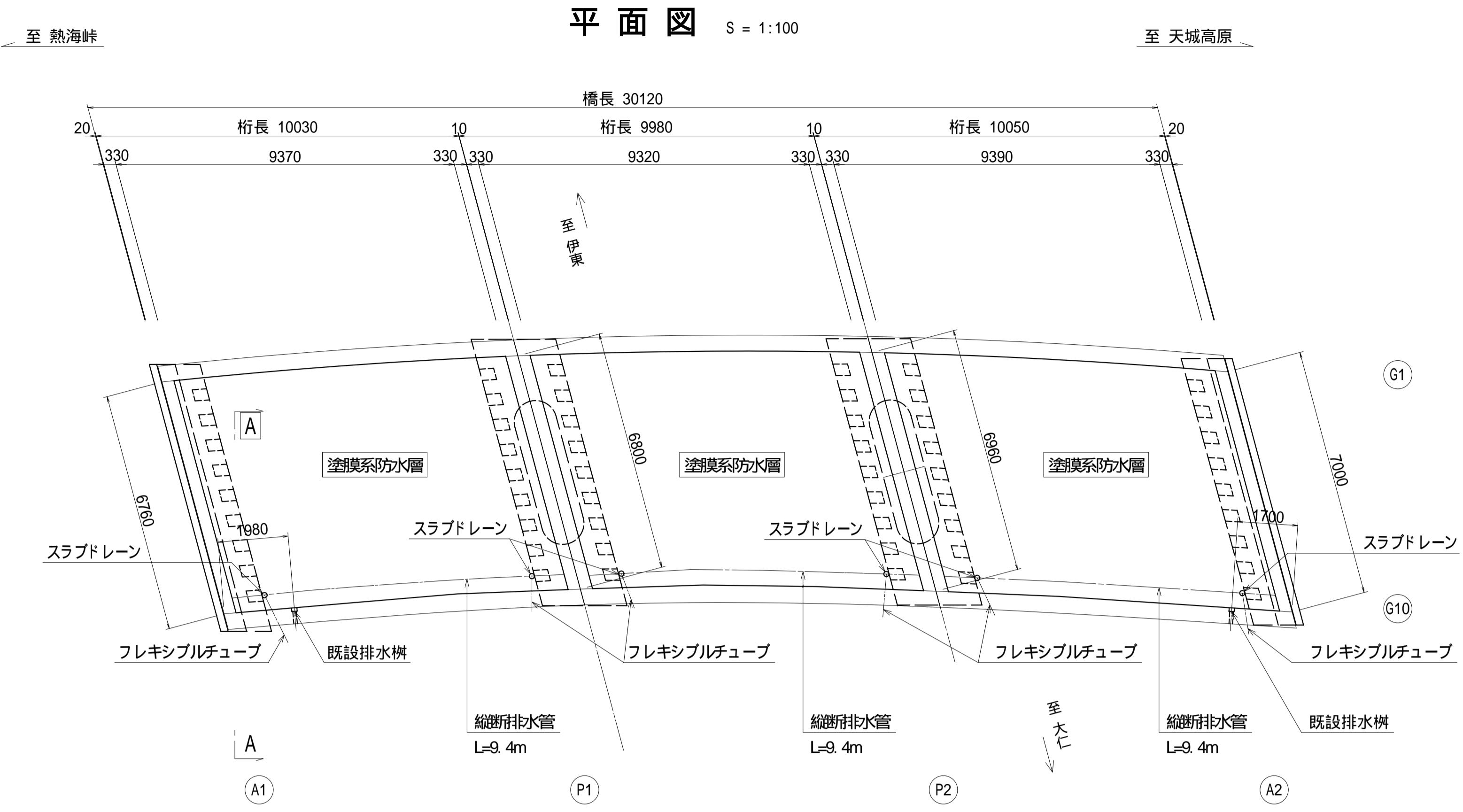
ガードレール塗装塗替え詳細図



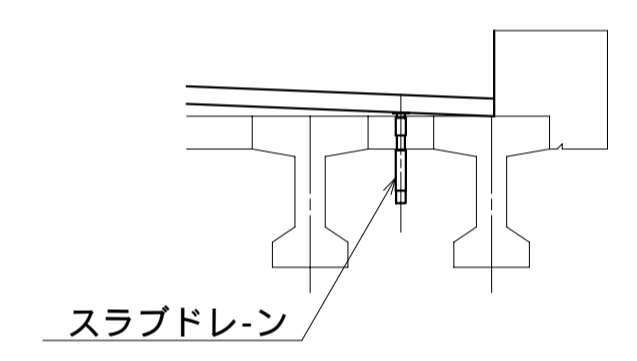
- 注) 1. コンクリートの脆弱部は、全て切り取る事。
 2. 施工に当たっては、施工箇所、施工範囲、施工深さを再度現地計測の上決定の事。
 3. 断面修復施工範囲は、腐食の生じていない鉄筋を確認するまで行う事。その際、既設鉄筋を傷つけないよう注意すること。
 4. 断面修復施工深さは、鉄筋に防錆材を塗布できるように、鉄筋裏側まで行う事。
 5. コンクリート面清掃は、上部工下面において汚れている範囲は全て行う。

工事名	平成22年度 伊豆スカイライン橋梁補修工事 (亀石橋・中伊豆橋)
工事箇所	伊東市宇佐美~伊豆市冷川 地内
図面の種類	亀石橋上部工補修工
縮尺 図示	図面番号 22 葉中 3
測量年月日 H	設計年月日 H
事務所名	静岡県道路公社

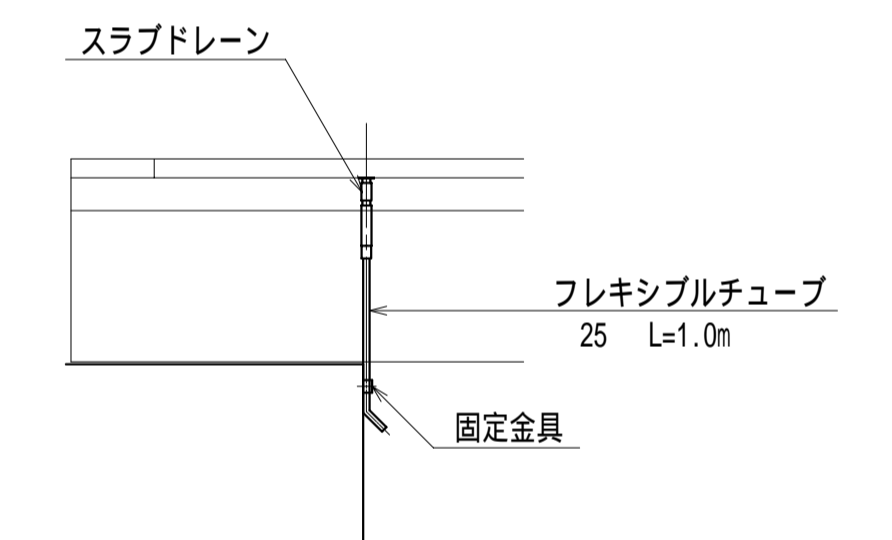
亀石橋橋面防水工詳細図



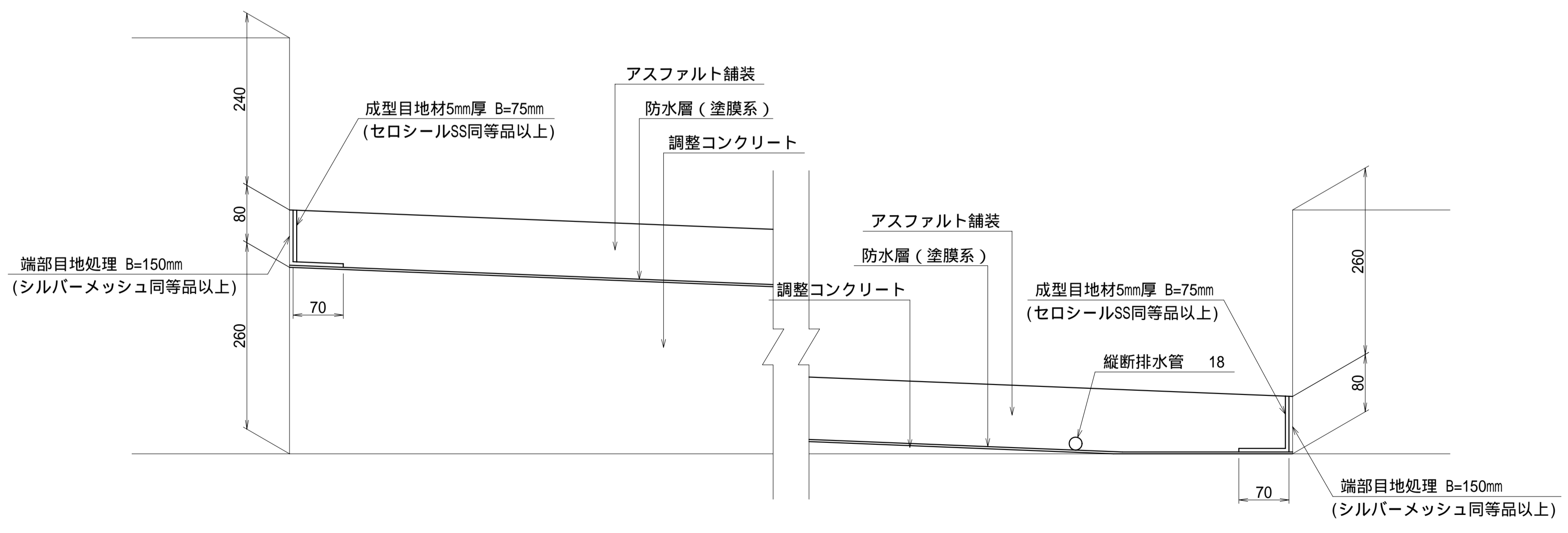
A - A 断面図 S = 1:30



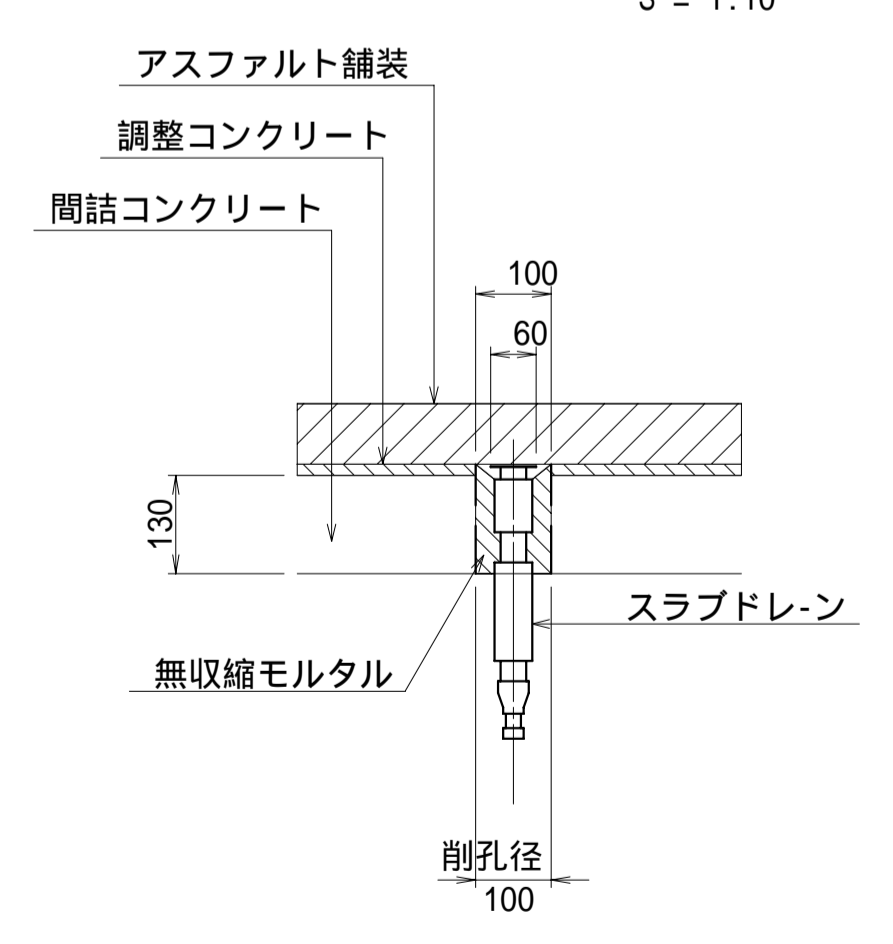
フレキシブルチューブ詳細図 S=1:30



防水工詳細図 S = 1:5



スラブドレーン取付詳細図 S = 1:10

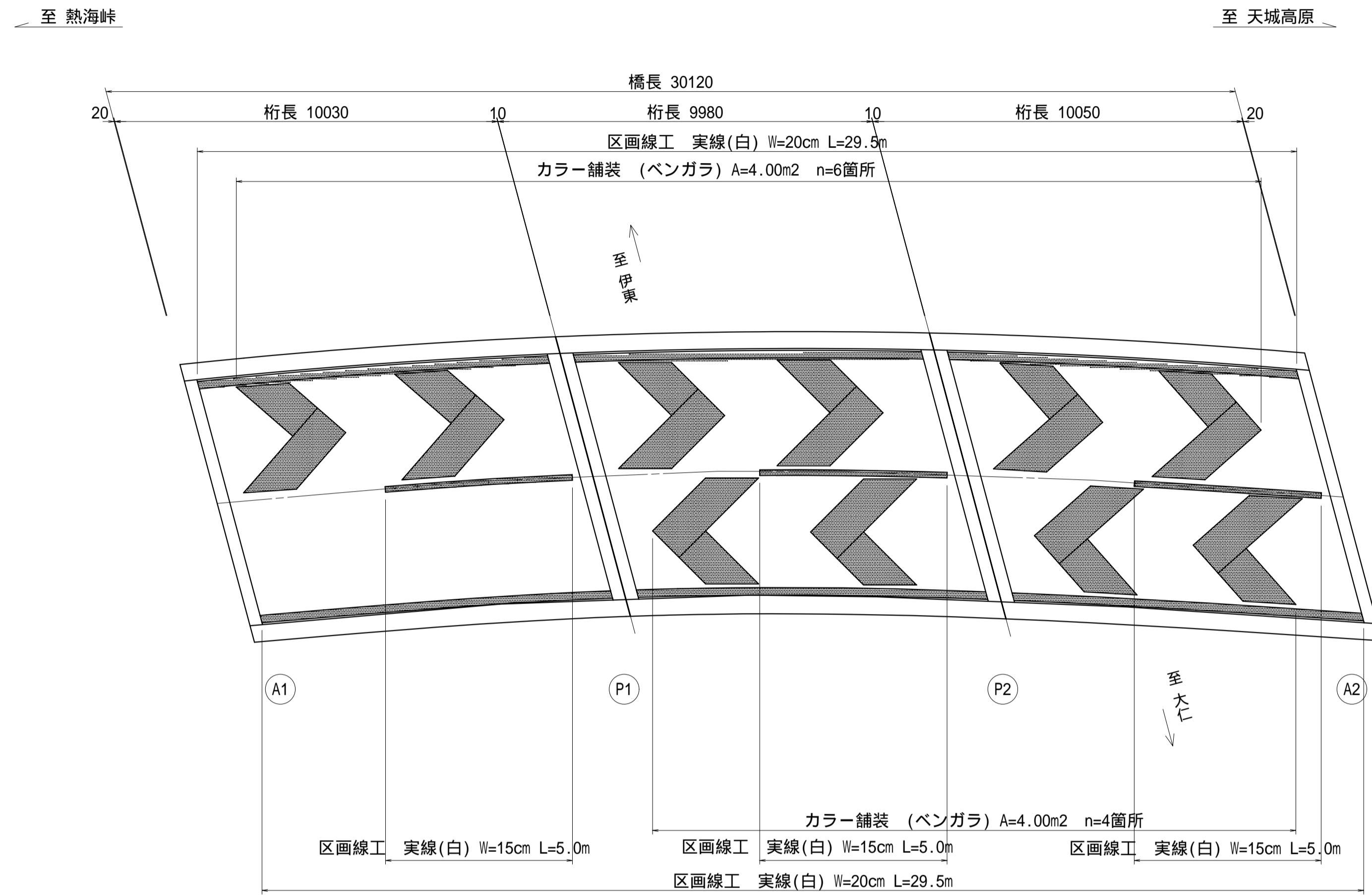


- 注記) 1. アスファルト舗装舗設後、区画線を現況復旧すること。
区画線の位置は発注者と協議すること。
2. 既設鉄筋は鉄筋探査し、削孔時に既設鉄筋を傷つけないよう注意すること。
 3. スラブドレーンは、再度、縦横断勾配を計測し勾配の低い側に設置すること。
 4. アスファルト舗装の復旧舗設厚は、切削後、再検討すること。
(舗設厚は、基本的に現況復旧とする。)

工事名	平成22年度 伊豆スカイライン橋梁補修工事 (亀石橋・中伊豆橋)
工事箇所	伊東市宇佐美 - 伊豆市冷川 地内
図面の種類	亀石橋橋面防水工詳細図
縮尺 図示	図面番号 22 葉中 4
測量年月日 H	設計年月日 H
事務所名	静岡県道路公社

亀石橋区画線工詳細図(参考図)

平面図 S = 1:100

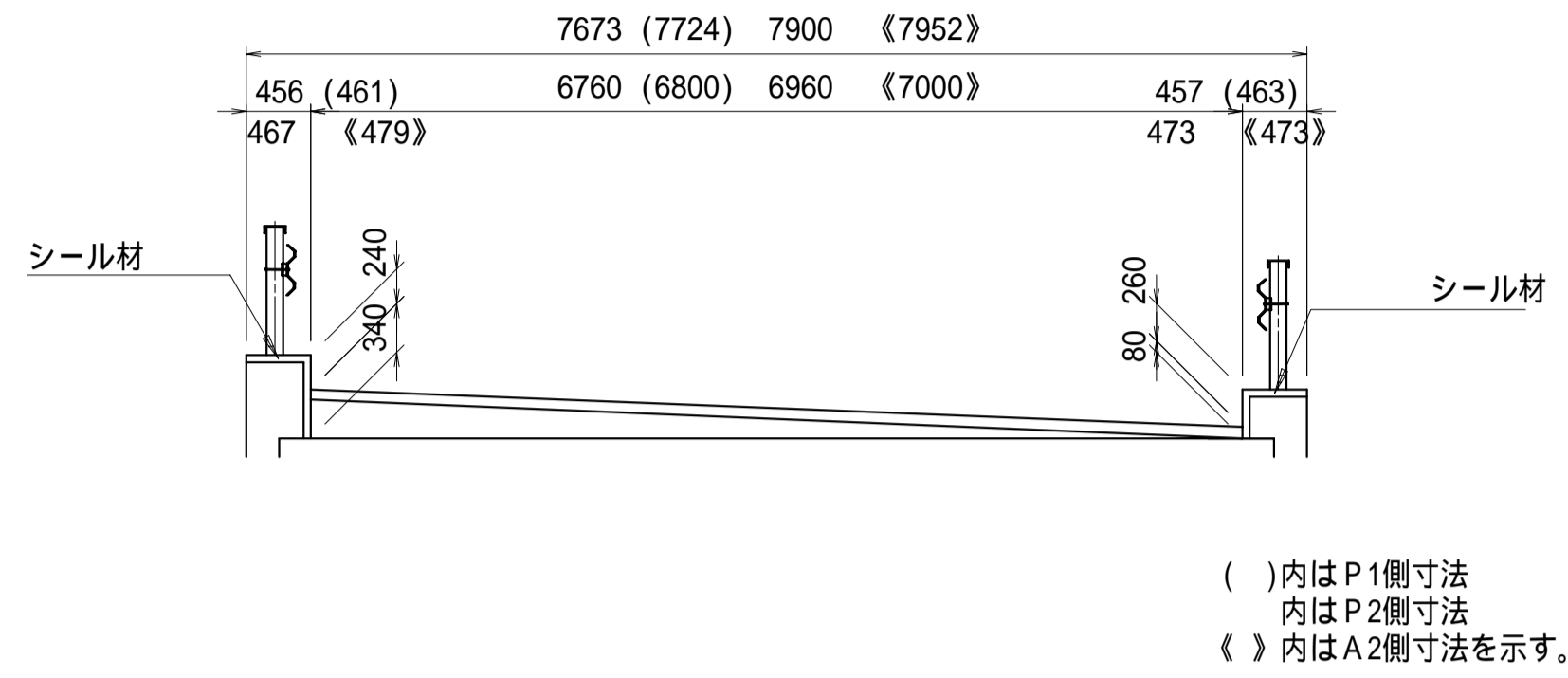


注記) 1. アスファルト舗装舗設後、区画線を現況復旧すること。
区画線の位置は発注者と協議すること。

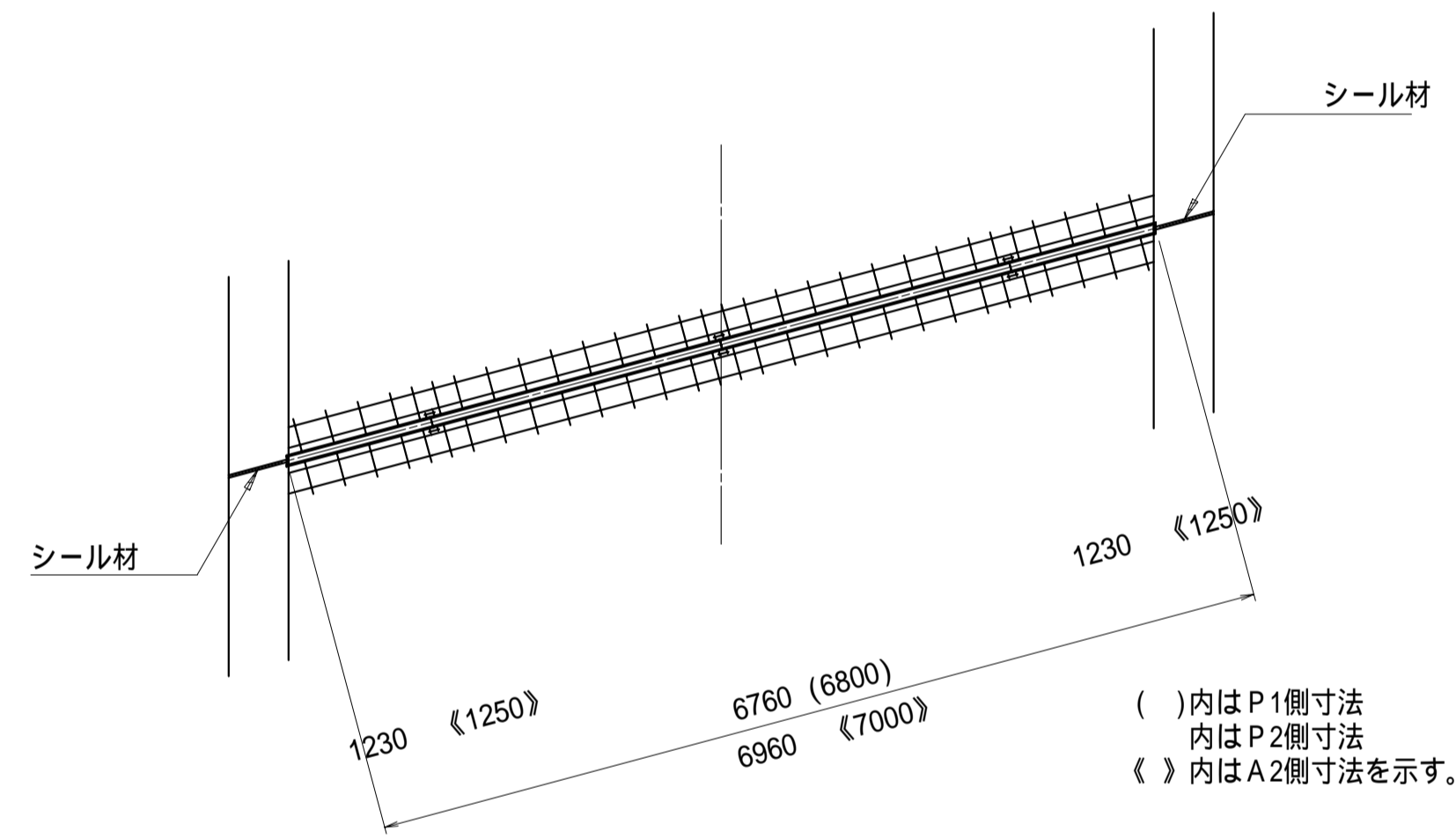
工事名	平成22年度 伊豆スカイライン橋梁補修工事 (亀石橋・中伊豆橋)
工事箇所	伊東市宇佐美～伊豆市冷川 地内
図面の種類	亀石橋区画線工詳細図(参考図)
縮尺 図示	図面番号 22 葉中 5
測量年月日 H	設計年月日 H
事務所名	静岡県道路公社

伸縮装置詳細図(参考図)

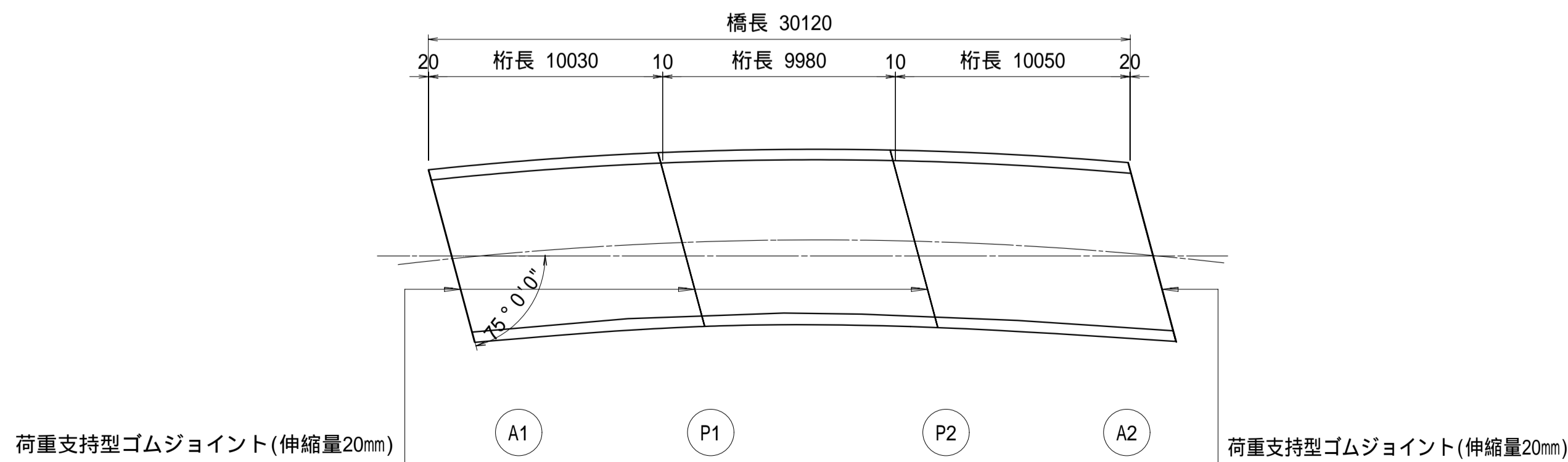
断面図 S = 1/50



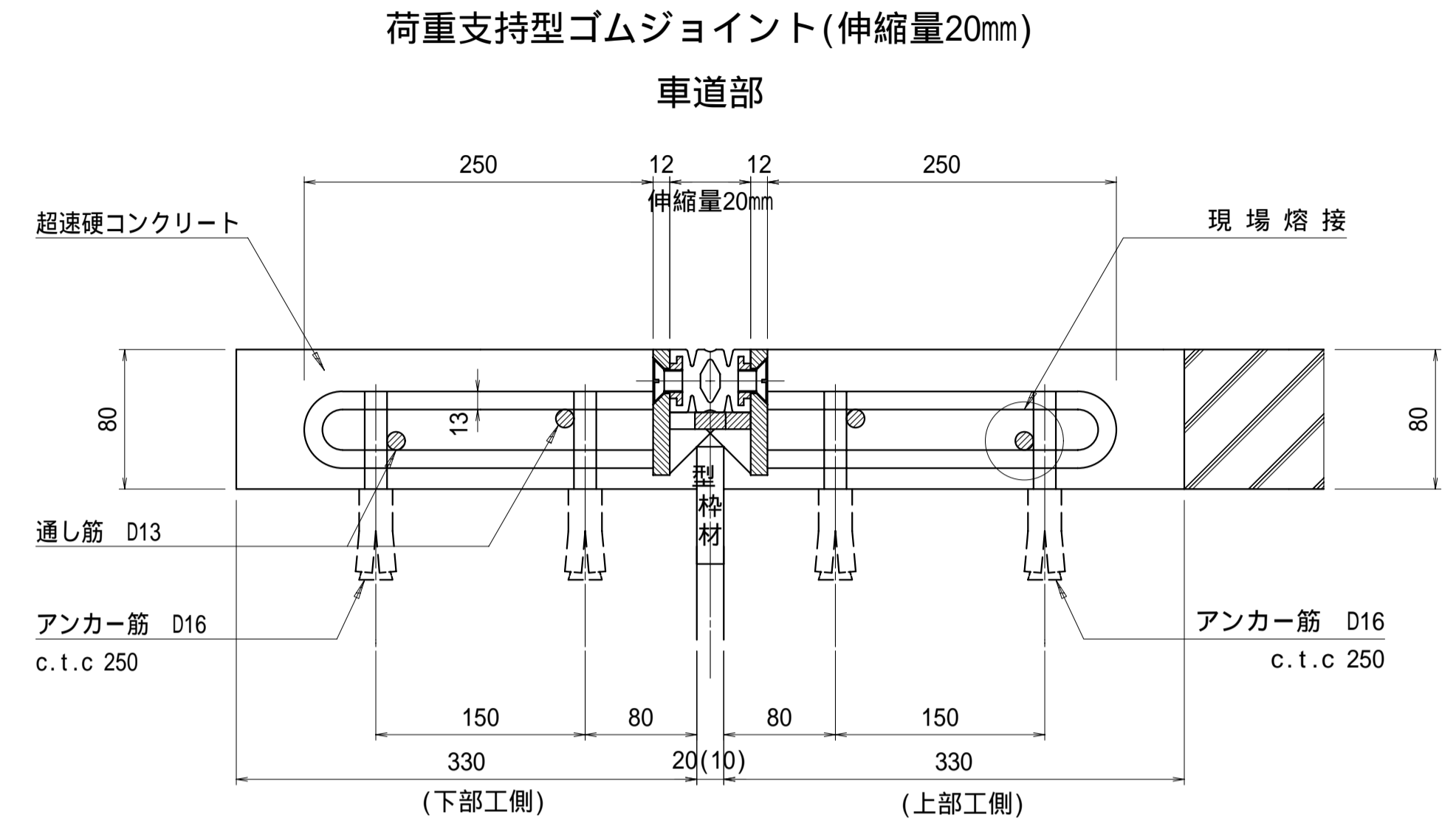
平面図 S = 1/50



配置図 S = 1/200

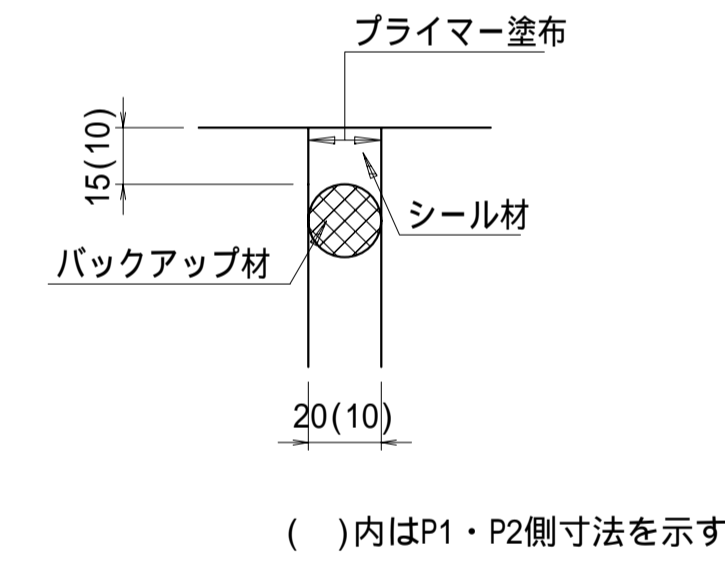


伸縮装置断面図 S = 1/4



()内はP1・P2側寸法を示す。

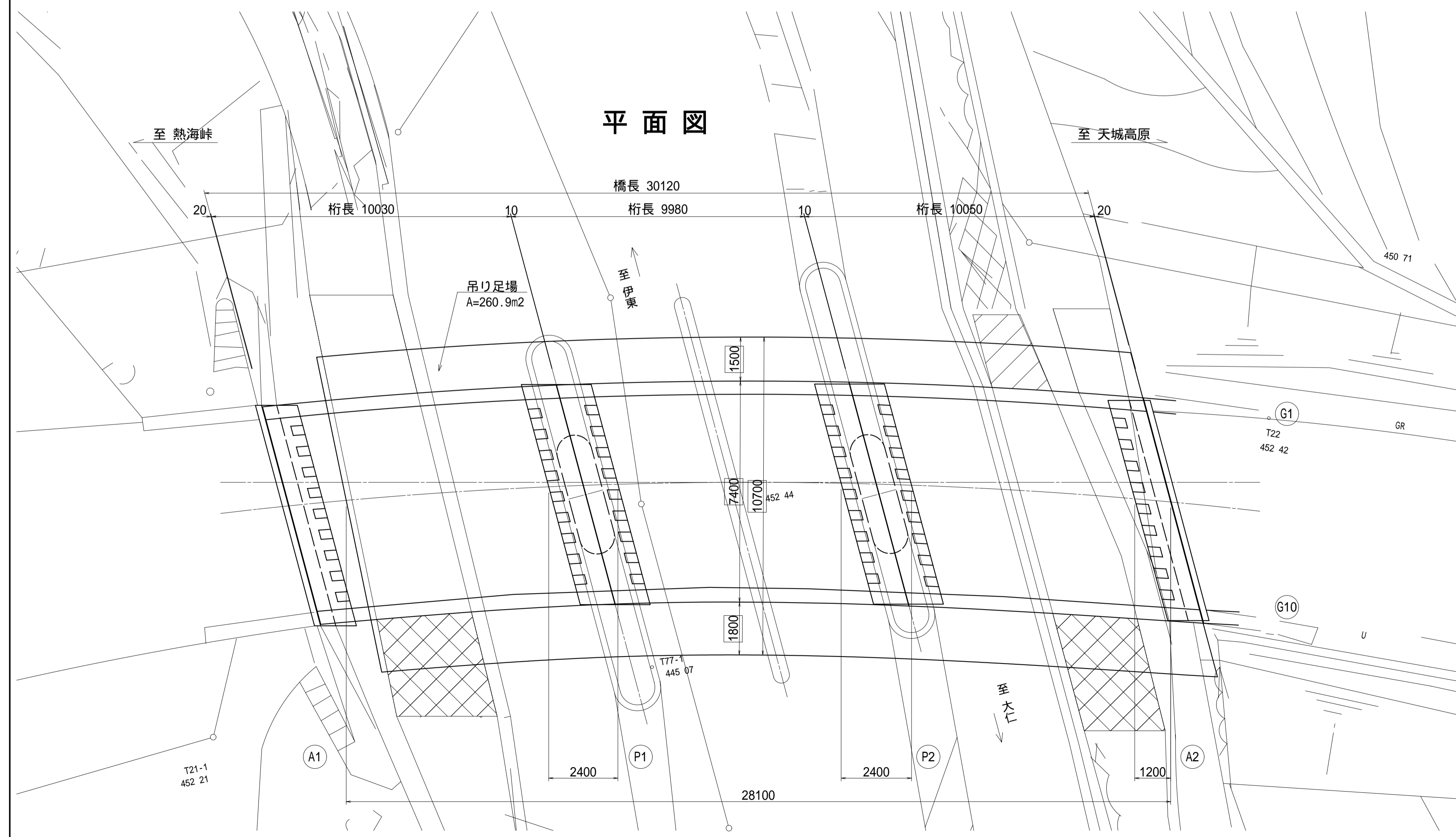
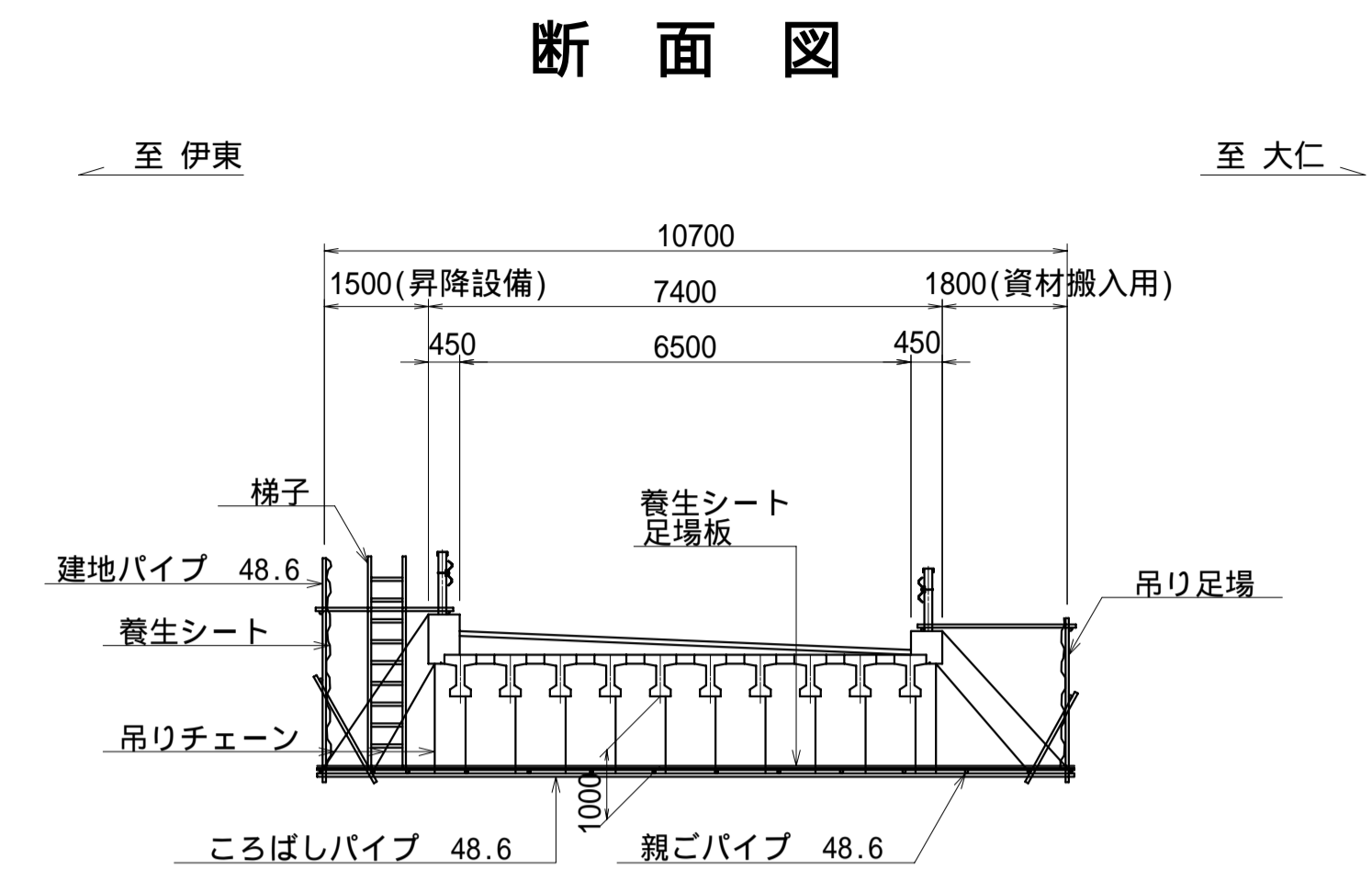
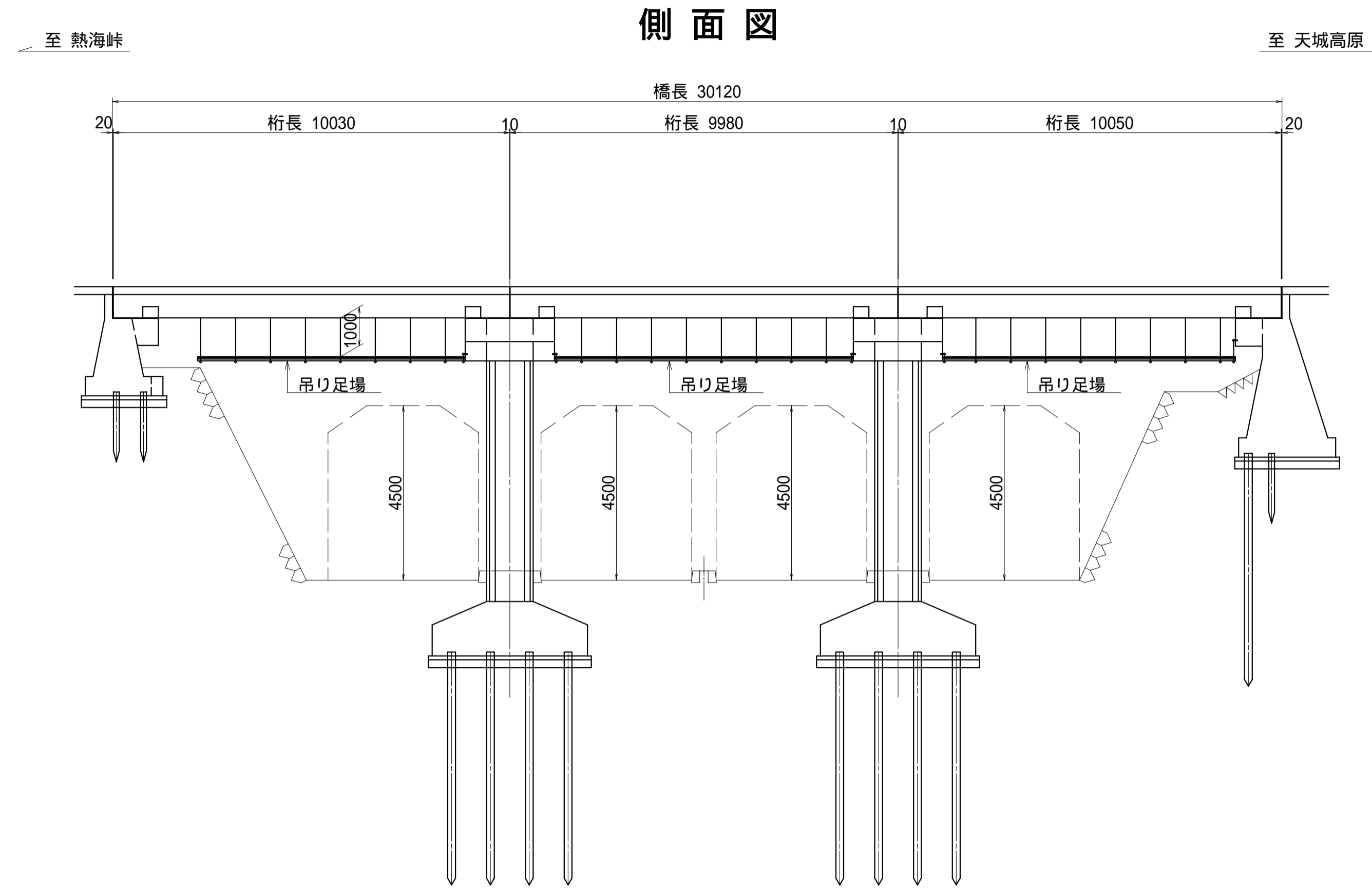
シーリング材充填図 S = 1/2



1. 桁下面および橋座面への漏水防止のため、既設伸縮装置を撤去し新規に荷重支持型ゴムジョイントを設置する。
2. 既設伸縮装置は路面上からは確認できない。伸縮装置の設置高および超速硬コンクリートの厚さは、既設舗装伸縮装置撤去後、再検討すること。
3. 橋面防水工の端部用地処理を確実にするため、伸縮装置の取替えは、橋面防水工施工前に行うのが望ましい。

工事名	平成22年度 伊豆スカイライン橋梁補修工事 (亀石橋・中伊豆橋)
工事箇所	伊東市宇佐美～伊豆市冷川 地内
図面の種類	亀石橋 伸縮装置詳細図(参考図)
縮尺 図示	図面番号 22 葉中 6
測量年月日 H	設計年月日 H
事務所名	静岡県道路公社

亀石橋足場工計画図 (参考図) S = 1 : 100



吊り足場工設置高は、施工する工種に応じて適切な高さに変更すること。

吊り足場設置範囲

工事名	平成22年度 伊豆スカイライン橋梁補修工事 (亀石橋・中伊豆橋)
工事箇所	伊東市宇佐美～伊豆市冷川 地内
図面の種類	亀石橋 足場工計画図 (参考図)
縮尺 図示	図面番号 22 葉中 7
測量年月日 H	設計年月日 H
事務所名	静岡県道路公社